

「聴覚障害のある児童生徒に関わる指導者研修会Ⅱ」

報告

- ◆日時◆ 令和5年7月31日(月) 9:45~12:00
- ◆場所◆ 京都府スーパーサポートセンター(SSC) SSCラボ(京都府立宇治支援学校内2階)
- ◆講演◆ 「聴覚障害児童生徒のための言語指導」
- ◆講師◆ 東北福祉大学 教育学部 教授 大西孝志 氏 (府専門家チーム委員)
- ◆参加者◆ 24名(小学校10校 中学校1校 聾学校 他)

令和5年7月31日(月)に京都府スーパーサポートセンターSSCラボにて、研修会を実施しました。24名の参加者に向けて、講師の大西 孝志 先生とリモート(Zoom)でつなぎ、「聴覚障害児童生徒のための言語指導」をテーマに御講演いただきました。その後、事前に参加者から募った質問にお答えいただき、聴覚障害児童生徒に対して、どのような支援や配慮、教育実践が児童生徒の学びにつながるのか、多くの学びを得る機会となりました。参加いただいた先生方の御意見・御感想をもとに、今後もよりよい研修会が実施できるよう、スタッフ一同取り組んでいきたいと思っております。

講演内容

特殊教育から特別支援教育へと転換され17年目となり、小中学校の通常の学級に8.8%の特別な支援を必要とする児童生徒がいることや、障害のある方がドラマ等のメディアで取り上げられる機会が増えていることなどの話を織り交ぜながら、特別支援教育の変遷の話をしてくださいました。

聴覚障害児童生徒については、近年の補聴器や人工内耳、補聴援助システム、音声自動認識の発達等で恩恵を受けていることがありつつも、基本的なきこえにくさによる言語獲得等の課題は大きいので、専門性をもって指導を行うことが大切であるとお話がありました。また、国語の教科書の活用や、日常の何気ない会話の中で意識して語彙を活用したり新しい言葉を取り入れたりすることの大切さを事例等も交えながらわかりやすくお話され、「発音指導は書き言葉習得のため」という発音指導の意義についてもお話ししてくださり、大変学びの多い御講演でした。

後半の質疑応答では、事前に伺っていた質問について大西先生にお答えいただきました。御講演・質疑応答共に、大西先生から今後の指導の道筋のヒントをいただくような貴重なお話でした。

研修会の様子



参加者の感想(一部紹介)

- ◆これまで聴覚障害について学ぶことがほぼなかったこともあり、新しいことをたくさん知ることができました。「言葉が狭いから広げる」ことを意識していきたいと思いました。聴覚障害のある子たちが思った以上に状況のよみとりや言葉の意味を把握できていないことがわかりました。
- ◆聴覚障害のある子の学びや生活での困りについてとてもわかり、多くの学びとなりました。発音が明瞭になることが目的ではなく、発音が明瞭にならなくても書き言葉が定着することが大切だとわかりました。